

生命医科学専攻・未来医療研究人材養成拠点形成事業

総合診療のためのP h Dコース

アカデミックG P教育コース

三重大学大学院医学系研究科

平成 29 年度

I. カリキュラムの目的

「家庭医療・総合診療」は、地域住民のニーズに合ったケアです。その特徴として、ケアの包括性、連携性、患者中心性、近接性、そして継続性などがあげられます。またその対象となる分野は、診療のみならず、保健や福祉活動も含まれます。そしてこれにかかわる職種は、いわゆる「家庭医」、「総合診療医」のみならず、地域医療に従事されているあらゆる診療科の医師、さらには医師以外の様々な職種の方に及びます。

この事業においては、地域で必要とされているケアの特性を明らかにする、地域住民の心理的または社会的背景や生活習慣など、住民の様々な要因が健康に与える影響を明らかにする（総合診療のためのPhDコース）、さらには、卒前の学生や地域で活動する医療職種の人材育成、多職種連携教育、または住民の行動変容を起こす効果的方法を明らかにする（アカデミックGP教育コース）など、家庭医療・総合診療に関連する様々なドメインの研究をすること、またそのような研究ができる人材を育成することが目的となります。

これらのコースの履修により、「家庭医療・総合診療」や「地域医療」にかかわる研究を自ら実施できるようになります。また、アカデミックGP教育コースの履修者は、家庭医療・総合診療や地域医療にかかわる教育や指導を医育機関や学外の医療施設でも行うことができるようにもなれます。

II. 未来医療研究人材養成拠点形成事業の概略

1. 授業科目及び単位数

コース等区分		授 業 科 目	単位数
コース共通科目		(1) 統計学 (2) 疫 学 (3) 医学教育学 (*1) (4) 家庭医療学・総合診療医学原論 (5) 家庭医療・総合診療各論 (大学院セミナーを含む)	2 2 1 1 2
演習 及び 実 験・ 実習	総合診療のための PhD コース	(1) 家庭医療学・総合診療医学 A, B, C, D	各6 計24
		(2) 地域医療学 A, B, C, D	各6 計24
	アカデミック GP 教 育コース	(3) 医学教育学 A, B, C, D	各6 計24

2. 履修方法

- (1) 共通科目6単位を、原則として3年次までに履修してもらいます。なお、アカデミック GP 教育コースを選択した学生のみ、(*1)の医学教育学が必修となります。
- (2) 分野科目(演習及び実験・実習) A, B, C, D の各6単位、計24単位を、原則として3年次までに履修します。但し、分野を超えて履修することも可能です。
(1)と(2)の合計30単位以上を修得するものとします。

3. コース共通科目の講義については、e-learningで聴講が可能となっています。

4. 対象は地域医療に従事されているあらゆる診療科の医師、さらには医師以外の様々な職種の方

III. 「総合診療のための PhD コース」、「アカデミック GP 教育コース」の詳細な方略

1. コース共通科目

(1) 統計学

a. 教員:

- ・竹村洋典(地域医療学 教授)
- ・市川周平(地域医療学 助教)
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目標

家庭医療・総合診療や地域医療などに係る疫学研究を実施する際に必要な統計学を、ワークショップ形式で実際に手を動かしながら身に付けます。

c. 科目の内容

- (a) Excel 関数を用いた基本的な統計解析
- (b) R の基本的な操作
- (c) R での古典的統計検定
- (d) 一般化線形モデル 1
- (e) 一般化線形モデル 2
- (f) 生存時間解析
- (g) 質問紙の設計
- (h) 研究デザインの立案
- (i) 受講者のデータを持ち込んだコンサルテーション(単位取得の要件としない)
- (j) 栄養疫学

- (k) 歯科疫学
- (l) 地域コホート研究
- (m) パブリック・ヘルス・インフォマティクス

(2) 疫学

a. 教員：

- ・関本 美穂（非常勤講師）
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目標

家庭医療・総合診療や地域医療などに係る疫学研究を実施する際に必要な疫学を身に付けます。

c. 科目の内容

以下のような疫学にかかわる項目を学習します。

- (a) 臨床疫学概論・大学院における研究について
- (b) リサーチクエスション、リスクとアウトカム
- (c) 研究仮説の検定
- (d) 正規分布・信頼区間・2つの平均の比較
- (e) 観察研究
- (f) 論文の系統的検索（実習）
- (g) コホート研究の実際
- (h) バイアス
- (i) 治療の研究
- (j) 研究倫理
- (k) 予防の研究
- (l) 診断の定量化
- (m) 質問紙法・QOLの測定と評価
- (n) 分割表
- (o) メタ分析（I）
- (p) 日本の医療制度（1）
- (q) システマティック・レビュー
- (r) メタ分析（II）
- (s) 日本の医療制度（2）
- (t) 医療経済学（1）
- (u) 医療経済学（2）
- (v) 費用対効果分析
- (w) 総括

(3) 医学教育学（「アカデミック GP 教育コース」では必修）

a. 教 員：

- ・若林 英樹（地域医療学 講師）
- ・竹村 洋典（家庭医療学 教授）
- ・田口 智博（総合診療科 助教）
- ・後藤 道子（地域医療学 助教）
- ・北村 大（総合診療科 助教）
- ・大西 弘高（東京大学 医学教育国際研究センター 講師）
- ・高村 昭輝（金沢医科大学 医学教育学講座 講師）
- ・吉村 学（宮崎大学 地域医療・総合診療学講座 教授）
- ・春田 淳志（筑波大学病院 総合診療グループ 講師）
- ・阿部 恵子（名古屋大学附属病院 キャリア形成支援センター 准教授）
- ・野呂 幾久子（東京慈恵医科大学 日本語教育研究室 教授）
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目 標

医学生の卒前における家庭医療・総合診療や地域医療の教育、地域で活動する医療職種の人材育成、多職種連携教育、そして住民の行動変容を起こす効果的方法などを実施できる人材を育成するために必要な医学教育の基本的、そして応用的知識を身に付けます。なお、選択科目で医学教育学を選択した学生（「アカデミック GP 教育コース」参加者）のみ、この医学教育学が必修となります。

c. 科目の内容

以下のような医学教育にかかわる項目を学習します。

- (a) 卒前・卒後の医学教育オリエンテーション
- (b) 評価・アセスメント～フィードバック・ポートフォリオ等～
- (c) 家庭医療学とポートフォリオ評価
- (d) 医学教育とカリキュラム開発
- (e) 初期研修における総合診療領域の教育
- (f) 看護分野におけるコミュニケーション教育
- (g) ロールプレイ・シミュレーション・模擬患者養成
- (h) 地域におけるワークベーストレーニングと評価
- (i) 多職種連携を共に学ぶ
- (j) Outcome based Education (OBE)
- (k) メンターシップとコーチング
- (l) 医学教育分野における日本語教育

(4) 家庭医療学・総合診療医学原論

a. 教員：

- ・若林 英樹 (地域医療学 講師, コーディネーター)
- ・竹村 洋典 (家庭医療学 教授)
- ・田口 智博 (総合診療科 助教)
- ・北村 大 (総合診療科 助教)
- ・森 洋平 (総合診療科 助教)
- ・近藤 諭 (総合診療科 助教)
- ・市川 周平 (地域医療学 助教)
- ・後藤 道子 (地域医療学 助教)
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目標

本コースは、家庭医療学・総合診療医学の基本原理とこれまでの発展、最近の研究成果を学び、近接的、継続的、協調的、包括的でありかつ、より実現性の高い住民・家族・地域へのケアを提供するための研究課題を見出し、リサーチによって知の進歩に寄与するための能力を身に着けることを目的とします。

c. 科目の内容

以下のような医学教育にかかわる項目を学習します。

- (a) ガイダンス&家庭医療／プライマリ・ケアの原則
- (b) 家庭医療／プライマリ・ケアの地域指向性
- (c) 家庭医療の哲学および科学的な基盤
- (d) New public involvement with visionary hospital
- (e) 疾患と病い、苦しみそして癒し～ナラティブベイストメディスン～
- (f) 医療面接
- (g) 医師患者関係と患者中心の医療
- (h) 健康増進と予防医療
- (i) 健康問題における家族
- (j) 在宅・緩和医療
- (k) 保健・医療・介護制度と地域包括ケア
- (l) 高齢者医療と疫学
- (m) 家庭医療分野での研究
- (n) 家庭医療と生涯教育
- (o) 世界と日本の家庭医療～医療制度と医療経済の視点から
- (p) 多職種連携 (Inter-professional Work)
- (q) 高齢者医療における Decision making
- (r) 家庭医療と産業衛生

(s) 質的研究

(5) 家庭医療学・総合診療各論（大学院セミナーを含む）

a. 教員：

家庭医療学、地域医療学、三重県総合診療地域医療学、亀山地域医療学、名張地域医療学等の講座に属する教員や全国の招聘講師、非常勤講師など

b. 目標

家庭医療・総合診療や地域医療にかかわる様々な各論的事項の理解を深めます。

c. 内容

家庭医療・総合診療や地域医療に関わる多面的な講義やワークショップなど

(a) 三重大学家庭医療学セミナー（毎月）

家庭医療・総合診療の診療、教育、研究などに係るセミナーに参加して、家庭医療・総合診療や地域医療の理解を深める。

(b) 三重プライマリ・ケア塾（数カ月に1回）

主として全国から著名な講師を招聘し、その診療、教育、研究などに係るセミナーに参加して家庭医療・総合診療や地域医療の理解を深める。

(c) 国際家庭医療フォーラム（年に約2回）

主として海外から著名な講師を招聘して、家庭医療・総合診療にかかわる診療、教育、研究などの講義やワークショップに参加して家庭医療・総合診療の理解を深める。

(d) FMIM および STEP（数カ月に1回）

家庭医療・総合診療にかかわる教育や指導の目標、方略、評価など（ポートフォリオの記載方法を含む）の講義やワークショップに参加して総合診療の教育・指導方法を身に付ける。

* 「アカデミック GP 教育コース」参加者は参加が必修である。

(e) その他の講演など

* 「総合診療各論」の内容は今後さらに追加される可能性があります。

2. 選択科目（演習および実習）

(1) 家庭医療学・総合診療医学 A、B、C、D

a. 指導教員：

- ・竹村 洋典（家庭医療学 教授）
- ・若林 英樹（地域医療学 講師）
- ・関本 美穂（非常勤講師）
- ・四方 哲（三重大学医学部臨床教授、非常勤講師）

- ・家 研也 (リサーチアソシエイト)
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目 標

地域で必要とされているケアの特性等を明らかにする調査研究を、将来、自らが行えるようになる。

c. 科目の内容

以下にあげるような総合診療・家庭医療の特性に係る調査を選択して、指導教員のもと研究を実施する。

- (a) 総合診療の特徴である医師の包括性、連携性、患者中心性、近接性や継続性が、患者の満足度、コンプライアンス、さらに健康アウトカム（血圧、コレステロール、尿酸、睡眠など）に与える影響を調査
- (b) 総合診療・家庭医療における医療面接の技能に係る研究
- (c) 在宅医療に係る住民と医師に対する調査
- (d) 保健事業にかかわる調査
- (e) 福祉事業にかかわる調査
- (f) 家族に係る調査
- (g) 多職種連携に係る調査
- (h) その他

(2) 地域医療学 A、B、C、D

a. 指導教員：

- ・竹村 洋典 (家庭医療学 教授)
- ・関本 美穂 (非常勤講師)
- ・四方 哲 (三重大学医学部臨床教授、非常勤講師)
- ・家 研也 (リサーチアソシエイト)
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目 標

地域住民の心理的または社会的背景や生活習慣など、住民の様々な要因が健康に与える影響を明らかにする調査研究、または地域における効果的な医療・福祉システムの調査研究などを、将来、自らが行えるようになる。

c. 科目の内容

以下にあげるような地域医療に係る調査を選択して、指導教員のもと研究を実施する。

- (a) 地域の人々の心理社会的な特性が、その住民の受療行動に与える影響を調査
- (b) 地域住民の病気・損傷の有病・発症や受診率、入院の頻度、健診・検診率などの調査

- (c) 住民の生活習慣（食生活、運動など）が住民の健康に与える影響を調査
- (d) 喫煙や飲酒が住民の健康に与える影響を調査
- (e) 認知症に係る調査
- (f) 医療、保健、または福祉事業の経済効果やアウトカム調査
- (g) その他

（3）医学教育学 A、B、C、D

a. 教員：

- ・若林 英樹（地域医療学 講師）
- ・後藤 道子（地域医療学 助教）
- ・竹村 洋典（家庭医療学 教授）
- ・その他の非常勤講師、招聘講師

b. 目 標

卒前の学生や地域で活動する医療職種の人材育成、多職種連携教育、そして住民の行動変容を起こす効果的方法などの調査研究を、将来、自らが行えるようになる。

c. 科目の内容

以下あげるような総合診療の教育・指導に係る調査を選択して、指導教員のもと研究を実施する。

- (a) 総合診療の教育方略に係る調査
- (b) 総合診療の学習者評価に係る調査
- (c) 地域住民の効果的な行動変容に係る調査
- (d) 多職種連携にかかわる調査
- (e) 学習者の態度に係る教育学的な研究
- (f) 教育方略としてのコーチングに係る調査
- (g) その他

IV. その他

講師と科目の内容は年度により変更がある可能性があります。